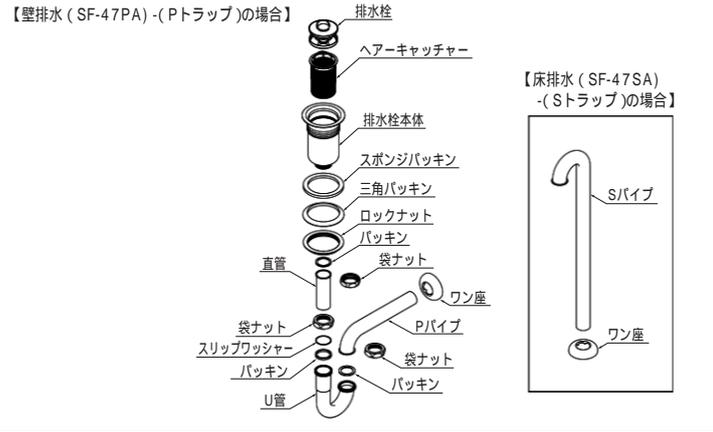


排水金具

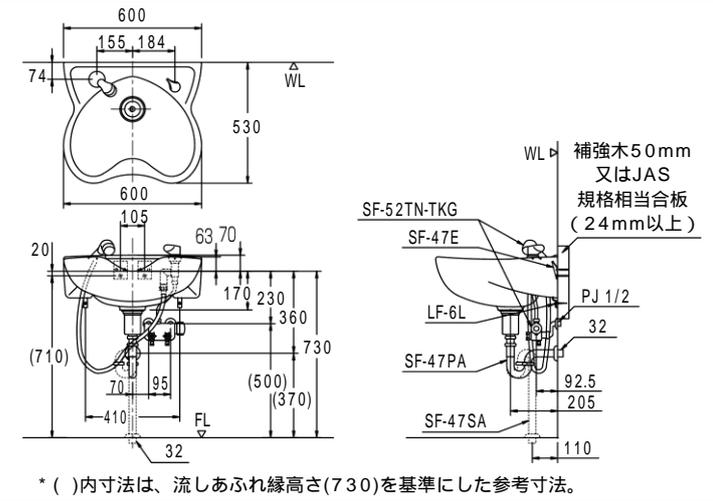
床排水(Sトラップ) : SF-47SA
壁排水(Pトラップ) : SF-47PA

この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
施工後は必ず正常に作動することをご確認ください。
お客様に必ず本書をお渡しください。

部品の名称



施工完了図



* () 内寸法は、流しあふれ縁高さ(730)を基準にした参考寸法。

床排水の場合、排水管は破線表示になります。

安全上のご注意

施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
ここに示した ⚠ 警告、注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
施工終了後、正常に作動することを確認するとともに、お客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
この施工説明書はお客様まで保管頂くようお願いしてください。

用語の解説

- 注意** ... 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
 ⚠ ... 「注意下さい！」(上記の『注意』と併用して注意をうながす。記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)
 ⚡ ... 「してはいけません！」(一般的な禁止記号です。)
 ⚠ ... 「分解してはいけません！」
 ⚠ ... 「指示通りにしなさい！」

⚠ 注意

陶器は割れものです。
施工前に輸送中の破損がないことを確かめてください。
施工後に施工段階での破損がないことを確かめてください。
破損部でケガをしたり、漏水により家財等を濡らす恐れがあります。



⚠ 注意

- 陶器に対するねじは締めすぎないようにしてください。
陶器が割れてケガをする恐れがあります。 (禁止)
- 給水は上水道に接続してください。
温泉水などの異物を多く含む水には使用できません。 (指示)
- 湯水を逆に配管しないでください。
水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。 (禁止)
- 衝撃を与えないでください。
破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。 (禁止)
- 水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。
湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。 (禁止)
- お湯の使用中に、他所の水栓の同時使用のないように、注意してください。
圧力変動が起こり、湯温が急上昇して、ヤケドをする恐れがあります。 (指示)
- フレキホースの差し直しをする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。
湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。 (指示)
- 給湯器の給湯温度設定は85 以下でご使用ください。
水栓が破損し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。 (指示)
- 高温の湯をお使いの後は必ず温度調節ハンドルの目盛りを40 以下に戻し、少し流してから止めてください。
次に使用するときいきなり高温の湯を浴び、ヤケドをする恐れがあります。 (指示)
- お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。
寒冷地仕様の水抜方法は、洗髪シャワー混合水栓の取扱説明書を参照ください。
凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。 (指示)
- 施工後に漏水検査を必ず行ってください。
漏水により家財等を濡らす恐れがあります。 (指示)
- 修理技術者以外の方は水栓を分解したり、修理したりしないでください。
ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。 (分解禁止)
- ヘアーキャッチャーは、詰まる前にこまめに清掃してください。
漏水で家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。 (指示)
- オーバーフロー穴はありません。
ご使用中はその場を離れないでください。
漏水で家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。 (指示)

施工前のご注意

はじめに、輸送中の破損がないことを確かめてください。
本品は非常に重いため、施工の際は落とさないよう十分注意をしてください。
ケガをしたり、部品を破損するおそれがあります。
各接続部は、漏水が起こらないように確実に接続してください。
施工時に、トラップの塗装面を傷つけないようにしてください。
水栓の取付けは、水栓の施工説明書をご覧ください。

施工手順

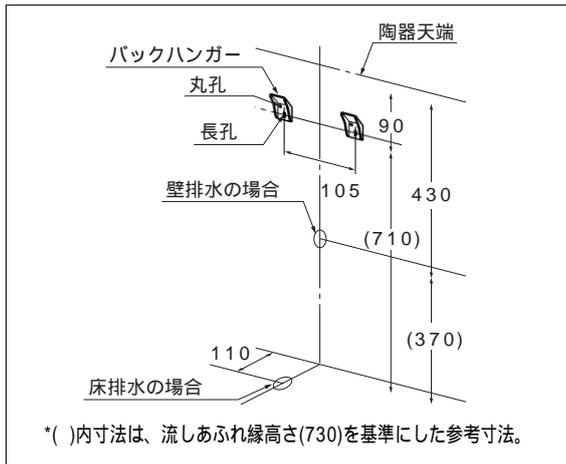
1. 下準備

- 設置する壁面は平滑で凹凸がないことを確認してください。
 < 木造壁の場合 >
 取付部厚さ50mm以上になるように、補強木を設けてください。
 補強木は構造体との固定を行ってください。
 < コンクリート壁の場合 >
 取付部の奥行きは75mm以上(コンクリート厚40mm以上)を確保してください。
 バックハンガーとAYボルトは別途用意してください。

	バックハンガー	固定金具
コンクリート	SF-47E(AY)	LF-6L(AY)
それ以外の場合 (合板等)	SF-47E	LF-6L

2. バックハンガーの位置決め

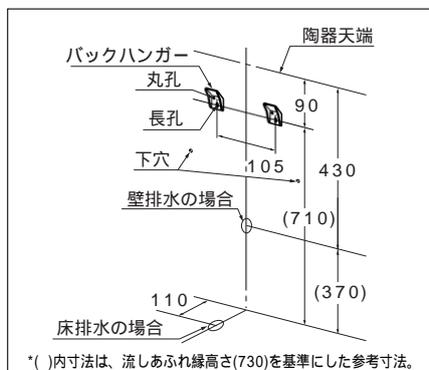
- (1)バックハンガーの長孔用の下穴をあけます。
下穴寸法は下表を参考にしてください。
- (2)バックハンガーの長孔を利用して、バックハンガーを仮止めします。
- (3)陶器をバックハンガーに仮据えし、陶器の上部を押さえて陶器の位置、水平を確認します。



	下穴径 (mm)	深さ (mm)
木ねじ	4~4.5	約45
AYボルト	11~12	約70

3. 壁止金具の位置決め

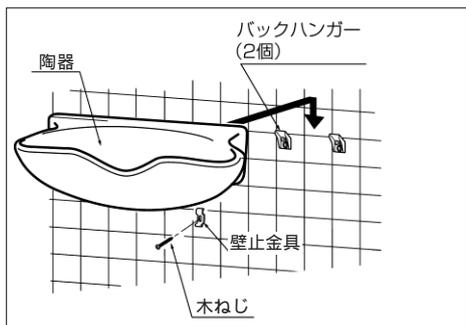
- (1)陶器の下部の取付穴に壁止金具を当てがい、下穴の位置に印を付けます。
- (2)陶器を外します。
- (3)バックハンガーの丸孔の下穴をあけて、バックハンガーを本固定します。
下穴寸法は下表を参考にしてください。



	下穴径 (mm)	深さ (mm)
木ねじ	4~4.5	約45
AYボルト	11~12	約70

4. 陶器の取付け

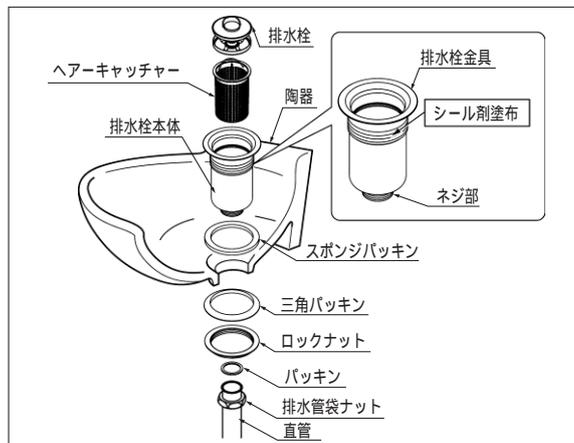
- (1)陶器をバックハンガーにかけます。
- (2)水平になっていることを確認して、壁止金具を木ねじまたはAYボルトで固定します。



5. 排水金具の取付け

- (1)陶器に排水金具本体を取り付けます。
取付前に、必ず陶器面の水分、油、ごみ等は拭き取ってください。
ロックナットを締め付け過ぎないでください。
過度な締め付けにより陶器が割れる恐れがあります。

- (2)排水管袋ナットで直管と排水栓本体のネジ部を接続します。
漏れ防止のため、スポンジパッキンを必ず入れてください。
漏れ防止のため、下図の指示する位置にシリコンコーキング等のシーリング剤を塗布します。



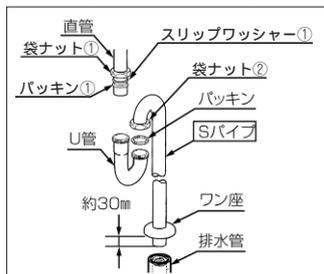
- (3)取付後、陶器の上から荷重を掛けて(頭部を乗せた状態を再現)陶器と排水栓本体の間にすきまが無いことを確認してください。
毛髪等が引掛かる恐れがあります。

6. 排水管の接続

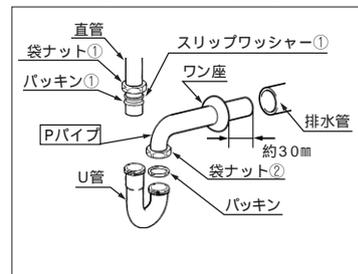
排水トラップを仮付けして、Pパイプ、Sパイプを排水管との差込みしる約30mmを残して切断してください。

- (1)U管に接続されている①のパッキン、スリップワッシャー、袋ナットを外します。取り外した順に排水金具に接続した直管へ通します。
- (2)U管と直管を袋ナットで接続します。
- (3)②の袋ナットを外し、Pパイプ、Sパイプに通します。この時ワン座も一緒に通します。
- (4)U管とPパイプ、Sパイプを袋ナットで接続します。

[ストラップの場合]



[Pトラップの場合]



7. 施工後の確認

施工後に給排水接続部の水漏れがないことを必ず確認します。
数回繰り返して水を流さないで確認が困難な場合があります。

お手入れ

普段のお手入れは、次のことに注意してください。

軽い汚れの場合

水またはぬるま湯で湿らした布で汚れをふきとってください。

ひどい汚れの場合

食器洗い用中性洗剤の薄めた液を含ませた布で、汚れをふきとり、その後は水道水を含ませた布でよく洗剤をふきとってからふきしてください。
陶器の表面に付着したみずあかには、中性洗剤をスポンジに付け、陶器を洗ってください。

また、次のものは使用しないでください。表面を傷める恐れがあります。

- 磨き粉などの粒子の粗い洗剤
- 酸性洗剤、塩素系漂白剤、アルカリ性洗剤
- ナイロンたわし、ブラシなど
- シンナー、ベンジンなどの溶剤

金具類は週に1回程度、乾いた柔らかい布でふいてください。

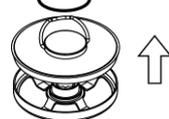
硬いものでたたいたり、ぶついたりしないでください。

キズが付いたり、メッキがはがれたりします。

排水栓の開閉

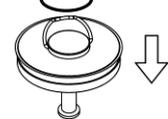
● 開く

中心部の軸を引き上げ、45°回転させることで、ゴム栓が上がります。
開いた状態



● 閉じる

中心部の軸を45°回転させることで軸が下がり、ゴム栓が下がります。
閉じた状態



オーバーフローの穴はありません。
ご使用中はその場を離れないでください。